

選択科目 b 群

教科 No.	6b001	授業科目	総合演習 I	単位数	1単位																
担当教員	石黒 義昭 (非常勤)			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生のみ																	
<p>【授業目標】 言葉と積極的に係わることによって、物事を明確に認識する力を見つけ、思考力を涵養する（具体的には、大学でもとめられるレベルのレポートを作成できるようになることを目標とする）。</p> <p>【授業概要】 数回にわたって実際に文章を書くことによって、自分の意見をまとめ、他人に伝わる文章を書くにはどうすればよいのか、文章表現の技法や論理を学んでいく。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 歴史的考察</td> </tr> <tr> <td>2. 自己診断</td> <td>10. 印象の文章化</td> </tr> <tr> <td>3. 理解しやすい文</td> <td>11. 芸術と社会1 (フルトヴェングラー)</td> </tr> <tr> <td>4. 文章の構成</td> <td>12. 芸術と社会2 (藤田嗣治・小磯良平)</td> </tr> <tr> <td>5. レポート・論文</td> <td>13. プレゼンテーション1</td> </tr> <tr> <td>6. 論説文</td> <td>14. プレゼンテーション2</td> </tr> <tr> <td>7. 事実の解読と感想</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 意見の論理的構成</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業中に書いてもらうもの (50%) + 学期末レポート (50%)。</p> <p>【履修上の注意】 人文科学や社会科学の分野からひとつのテーマをえらんで追究しようという学生の参加をとくに歓迎する。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 適宜指示する。「よい」文章を書くためには、「よい」文章にふれなければならない。ふだんから、さまざまな本 (分野を問わず「名著」と呼ばれるもの) を読むようにしてほしい。 ※備考 授業計画に挙げたテーマはすべてとりあげる予定だが、様子を見ながら、順番を変えたり、複数のテーマをひとつのコマであつかうことがある。 DVD教材やスライドを使用する場合は教室を暗くするので、手許を照らすものを用意すること。</p>						1. ガイダンス	9. 歴史的考察	2. 自己診断	10. 印象の文章化	3. 理解しやすい文	11. 芸術と社会1 (フルトヴェングラー)	4. 文章の構成	12. 芸術と社会2 (藤田嗣治・小磯良平)	5. レポート・論文	13. プレゼンテーション1	6. 論説文	14. プレゼンテーション2	7. 事実の解読と感想	15. まとめ	8. 意見の論理的構成	
1. ガイダンス	9. 歴史的考察																				
2. 自己診断	10. 印象の文章化																				
3. 理解しやすい文	11. 芸術と社会1 (フルトヴェングラー)																				
4. 文章の構成	12. 芸術と社会2 (藤田嗣治・小磯良平)																				
5. レポート・論文	13. プレゼンテーション1																				
6. 論説文	14. プレゼンテーション2																				
7. 事実の解読と感想	15. まとめ																				
8. 意見の論理的構成																					

教科 No.	6b002	授業科目	総合演習 II [平成 21 年度以前入学者教職課程必修]	単位数	2単位																
担当教員	教務委員			開講学期	後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上																	
<p>【授業目標】 現代社会の様々な問題や地球と宇宙と芸術・音楽に関わる様々なテーマを、幅広い視野をもって考察し、自分の頭で意見をまとめる能力、グローバル化の時代に生きるための知識と表現力を身につける。</p> <p>【授業概要】 音楽学部教養科目の中心であり、教職課程履修者には必修であるが、それ以外の学生にも幅広く文化全般に関する知識を得る機会として推奨する。外部の特別講師だけでなく、普段講義を担当しておられない実技の先生、非常勤講師の方々にも特別に講義をお願いする。講義の内容及び日程は、ガイダンスで発表する。聴講を歓迎する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. ⑦落合理恵子 (フランス語・イタリア語非常勤講師)</td> </tr> <tr> <td>2. 主な講師予定者は次のとおり 内容・日程はガイダンスで配布する。</td> <td>10. ⑧カパツ・カロリーナ (イタリア語非常勤講師)</td> </tr> <tr> <td>3. ①建島 哲 (学長)</td> <td>11. ⑨北村千絵 (英語非常勤講師)</td> </tr> <tr> <td>4. ②岡田加津子 (作曲専攻)</td> <td>12. ⑩田鐵智志 (日本伝統音楽研究センター非常勤講師)</td> </tr> <tr> <td>5. ③野原みどり (ピアノ専攻)</td> <td>13. ⑪松井淑恵 (奈良県立医科大学住居医学講座特別研究員)</td> </tr> <tr> <td>6. ④豊嶋泰嗣 (弦楽専攻)</td> <td>14. ⑫井上廣子 (写真家)</td> </tr> <tr> <td>7. ⑤大嶋義実 (管・打楽専攻)</td> <td>15. ⑬出水奈美 (毎日新聞社芸芸部記者)</td> </tr> <tr> <td>8. ⑥上野洋子 (声楽専攻)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 毎回出されたレポートの総合点による。別途、フィールドワークなどによる特別レポートを作成した場合はこれに加味する。</p> <p>【履修上の注意】 授業の後で出された課題について、翌日の午後5時までに簡単なレポートを提出する。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 毎回、授業のはじめに適宜、資料を配布する。 ※備考 特になし</p>						1. ガイダンス	9. ⑦落合理恵子 (フランス語・イタリア語非常勤講師)	2. 主な講師予定者は次のとおり 内容・日程はガイダンスで配布する。	10. ⑧カパツ・カロリーナ (イタリア語非常勤講師)	3. ①建島 哲 (学長)	11. ⑨北村千絵 (英語非常勤講師)	4. ②岡田加津子 (作曲専攻)	12. ⑩田鐵智志 (日本伝統音楽研究センター非常勤講師)	5. ③野原みどり (ピアノ専攻)	13. ⑪松井淑恵 (奈良県立医科大学住居医学講座特別研究員)	6. ④豊嶋泰嗣 (弦楽専攻)	14. ⑫井上廣子 (写真家)	7. ⑤大嶋義実 (管・打楽専攻)	15. ⑬出水奈美 (毎日新聞社芸芸部記者)	8. ⑥上野洋子 (声楽専攻)	
1. ガイダンス	9. ⑦落合理恵子 (フランス語・イタリア語非常勤講師)																				
2. 主な講師予定者は次のとおり 内容・日程はガイダンスで配布する。	10. ⑧カパツ・カロリーナ (イタリア語非常勤講師)																				
3. ①建島 哲 (学長)	11. ⑨北村千絵 (英語非常勤講師)																				
4. ②岡田加津子 (作曲専攻)	12. ⑩田鐵智志 (日本伝統音楽研究センター非常勤講師)																				
5. ③野原みどり (ピアノ専攻)	13. ⑪松井淑恵 (奈良県立医科大学住居医学講座特別研究員)																				
6. ④豊嶋泰嗣 (弦楽専攻)	14. ⑫井上廣子 (写真家)																				
7. ⑤大嶋義実 (管・打楽専攻)	15. ⑬出水奈美 (毎日新聞社芸芸部記者)																				
8. ⑥上野洋子 (声楽専攻)																					

教科 No.	6b003	授業科目	哲学：美学の基礎となる哲学を学ぶ	単位数	2単位																
担当教員	浅沼光樹（非常勤）			開講学期	後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上																	
<p>【授業目標】 美学的見地から見たヨーロッパ近代の哲学史について、つまり〈近代ヨーロッパの主要な哲学者が特に《美学》的なテーマをめぐって何をどのように論じてきたか〉ということについて、基本的な知識を習得する。</p> <p>【授業概要】 時代の文化活動の基礎にあって、その活動に生命と方向を与えているのが哲学です。この講義はその歴史を学びたいという人のためのものです。ただし近代以降に視野を限って。その際、この時期に《美学》が成立したことも考慮に入れ、この概説が美学を学びたいという人にとって第一歩となりうるようにも心がけたいと考えています。</p> <p>【授業内容】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">9. ロマン主義</td> </tr> <tr> <td>2. 哲学とは何か</td> <td>10. ヘーゲル (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 近代哲学の始まりールネサンスからデカルトへ</td> <td>11. ヘーゲル (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 合理論</td> <td>12. ニーチェ</td> </tr> <tr> <td>5. 経験論</td> <td>13. 生の哲学</td> </tr> <tr> <td>6. 啓蒙主義</td> <td>14. 現象学</td> </tr> <tr> <td>7. カント (1)</td> <td>15. エピローグ (まとめ)</td> </tr> <tr> <td>8. カント (2)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 平常点 (=出席+毎回の簡単なレポート) によって評価します。</p> <p>【履修上の注意】 初回にガイダンスを行いますので、必ず出席してください。</p> <p>【教科書】 プリントを使用します。</p> <p>【参考書等】 講義の中でそのつど指摘します。</p> <p>※備考 授業計画は参加者の関心に応じて変更される可能性があります。</p>						1. ガイダンス	9. ロマン主義	2. 哲学とは何か	10. ヘーゲル (1)	3. 近代哲学の始まりールネサンスからデカルトへ	11. ヘーゲル (2)	4. 合理論	12. ニーチェ	5. 経験論	13. 生の哲学	6. 啓蒙主義	14. 現象学	7. カント (1)	15. エピローグ (まとめ)	8. カント (2)	
1. ガイダンス	9. ロマン主義																				
2. 哲学とは何か	10. ヘーゲル (1)																				
3. 近代哲学の始まりールネサンスからデカルトへ	11. ヘーゲル (2)																				
4. 合理論	12. ニーチェ																				
5. 経験論	13. 生の哲学																				
6. 啓蒙主義	14. 現象学																				
7. カント (1)	15. エピローグ (まとめ)																				
8. カント (2)																					

教科 No.	6b004	授業科目	文芸学	単位数	2単位
担当教員	(休講)			開講学期	前期または後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上	
<h1 style="font-size: 2em;">今年度休講</h1>					

教科 No.	6b005	授業科目	メディア学：メディアで考える日本と朝鮮の 20 世紀	単位数	2単位																
担当教員	小林聡明（非常勤）			開講学期	集中（前期）																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1 回生以上																	
<p>【授業目標】 日本と朝鮮半島は歴史的に深いかかわりを持っている。本授業は、日朝の歴史的関係をメディアを手がかりに考える。それは朝鮮半島についての基礎知識を獲得し、隣国・隣人を見つめる豊かな眼差しを養うものとなる。</p> <p>【授業概要】 本授業は、①植民地、②戦争、③在日韓国朝鮮人の 3 つのトピックから構成され、各時代の背景やメディアの有り様、問題の所在などについて具体的に解説する。なお、本授業は一方的な講義形式をとらない。映画やドキュメンタリー、音楽を鑑賞してもらい、受講生と講師がともに「考える」という知的営みを大切にする。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. はじめに</td> <td>9. 戦争とメディア④</td> </tr> <tr> <td>2. 植民地とメディア①</td> <td>10. 在日韓国朝鮮人とメディア①</td> </tr> <tr> <td>3. 植民地とメディア②</td> <td>11. 在日韓国朝鮮人とメディア②</td> </tr> <tr> <td>4. 植民地とメディア③</td> <td>12. 在日韓国朝鮮人とメディア③</td> </tr> <tr> <td>5. 植民地とメディア④</td> <td>13. 在日韓国朝鮮人とメディア④</td> </tr> <tr> <td>6. 戦争とメディア①</td> <td>14. 予備</td> </tr> <tr> <td>7. 戦争とメディア②</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 戦争とメディア③</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席状況や随時提出してもらったコメントの内容によって総合的に評価する。なお出席を重視するため、7 割以上の出席率が成績評価の前提条件となる。</p> <p>【履修上の注意】 積極的な質問や問題提起を期待する。</p> <p>【教科書】 特に指定しない。</p> <p>【参考書等】 和田春樹『これだけは知っておきたい日本と朝鮮の 100 年史』平凡社、2010 年 田月仙『禁じられた歌 - 朝鮮半島音楽百年史』中公新書、2008 年</p>						1. はじめに	9. 戦争とメディア④	2. 植民地とメディア①	10. 在日韓国朝鮮人とメディア①	3. 植民地とメディア②	11. 在日韓国朝鮮人とメディア②	4. 植民地とメディア③	12. 在日韓国朝鮮人とメディア③	5. 植民地とメディア④	13. 在日韓国朝鮮人とメディア④	6. 戦争とメディア①	14. 予備	7. 戦争とメディア②	15. まとめ	8. 戦争とメディア③	
1. はじめに	9. 戦争とメディア④																				
2. 植民地とメディア①	10. 在日韓国朝鮮人とメディア①																				
3. 植民地とメディア②	11. 在日韓国朝鮮人とメディア②																				
4. 植民地とメディア③	12. 在日韓国朝鮮人とメディア③																				
5. 植民地とメディア④	13. 在日韓国朝鮮人とメディア④																				
6. 戦争とメディア①	14. 予備																				
7. 戦争とメディア②	15. まとめ																				
8. 戦争とメディア③																					

教科 No.	6b006	授業科目	環境生態学：自然環境保全の基礎知識を学ぶ	単位数	2単位																
担当教員	田端敬三（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1 回生以上																	
<p>【授業目標】 地球レベル、地域レベルでの環境問題の現状についての基礎知識を身につけ、その対策、環境保全技術について学ぶ。</p> <p>【授業概要】 本講義では、地球温暖化防止、都市緑化、生物多様性保全、エコロジカルプランニング、自然再生等のキーワードを通じて、将来の「人と自然の共生」「持続可能な社会」の実現を目指すために必要となる環境生態学について解説を行う。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 環境生態学の概要</td> <td>9. 水辺環境の現状とその保全</td> </tr> <tr> <td>2. 地域環境と生態系 (1)</td> <td>10. 野外実習 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 地域環境と生態系 (2)</td> <td>11. 野外実習 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 地域環境と生態系 (3)</td> <td>12. 野外実習 (3)</td> </tr> <tr> <td>5. 地球環境の現状 (1)</td> <td>13. 野外実習 (4)</td> </tr> <tr> <td>6. 地球環境の現状 (2)</td> <td>14. 野外実習 (5)</td> </tr> <tr> <td>7. 森林環境の現状とその保全</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 農村環境の現状とその保全</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席とレポートによる</p> <p>【履修上の注意】 毎回小レポートを課しますので、できるだけ各回出席し、提出するようにして下さい</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 「環境白書」(環境省 編), 「生態系入門」(日本生態学会 編), 「保全生態学入門」(鷲谷いづみ・矢原徹一 著), 「環境デザイン学—ランドスケープの保全と創造」(森本幸裕・白幡洋三郎編著)</p>						1. 環境生態学の概要	9. 水辺環境の現状とその保全	2. 地域環境と生態系 (1)	10. 野外実習 (1)	3. 地域環境と生態系 (2)	11. 野外実習 (2)	4. 地域環境と生態系 (3)	12. 野外実習 (3)	5. 地球環境の現状 (1)	13. 野外実習 (4)	6. 地球環境の現状 (2)	14. 野外実習 (5)	7. 森林環境の現状とその保全	15. まとめ	8. 農村環境の現状とその保全	
1. 環境生態学の概要	9. 水辺環境の現状とその保全																				
2. 地域環境と生態系 (1)	10. 野外実習 (1)																				
3. 地域環境と生態系 (2)	11. 野外実習 (2)																				
4. 地域環境と生態系 (3)	12. 野外実習 (3)																				
5. 地球環境の現状 (1)	13. 野外実習 (4)																				
6. 地球環境の現状 (2)	14. 野外実習 (5)																				
7. 森林環境の現状とその保全	15. まとめ																				
8. 農村環境の現状とその保全																					

教科 No.	6b007	授業科目	法学		単位数	2単位
担当教員	(休講)				開講学期	前期または後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上		
<p>今年度休講</p>						

教科 No.	6b008	授業科目	演劇学		単位数	2単位
担当教員	(休講)				開講学期	前期または後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上		
<p>今年度休講</p>						

教科 No.	6b009	授業科目	芸術学		単位数	2単位
担当教員	(休講)				開講学期	前期または後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上		
<p>今年度休講</p>						

教科 No.	6b010	授業科目	西洋美術史 I	単位数	2単位																
担当教員	潮江宏三 (美術学部・芸術学研究室)			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1 回生以上																	
<p>【授業目標】 西洋美術理解のための基本的知識と見方を身につけ、西洋文化の理解を深める。</p> <p>【授業概要】 「ヨーロッパ」の原像が形成される中世後期から盛期ルネサンスまでの美術の展開を絵画史を中心に論じる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 西洋の歴史と美術史の枠組みについて</td> <td>9. 初期ネーデルランドの絵画 1</td> </tr> <tr> <td>2. ルネサンスとは何か?</td> <td>10. 初期ネーデルランドの絵画 2</td> </tr> <tr> <td>3. 中世の文化と美術</td> <td>11. 15 世紀後半のイタリア絵画 1</td> </tr> <tr> <td>4. 中世後期の絵画 1</td> <td>12. 15 世紀後半のイタリア絵画 2</td> </tr> <tr> <td>5. 中世後期の絵画 2</td> <td>13. 盛期ルネサンスの絵画 1</td> </tr> <tr> <td>6. 15 世紀前半のイタリア絵画 1</td> <td>14. 盛期ルネサンスの絵画 2</td> </tr> <tr> <td>7. 15 世紀前半のイタリア絵画 2</td> <td>15. 盛期ルネサンスの絵画 3</td> </tr> <tr> <td>8. 15 世紀前半のイタリア絵画 3</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末に筆記試験を行い、それに出席点を加味して評価する。</p> <p>【履修上の注意】 可能な限りスライドを映写するので、鑑賞体験を積んで欲しい。</p> <p>【教科書】 教科書として「西洋美術史案内」(実費 1, 000 円)を購入すること。参考資料は別途配布する。</p> <p>【参考書等】 参考図書に関しては、授業中に指示する。</p>						1. 西洋の歴史と美術史の枠組みについて	9. 初期ネーデルランドの絵画 1	2. ルネサンスとは何か?	10. 初期ネーデルランドの絵画 2	3. 中世の文化と美術	11. 15 世紀後半のイタリア絵画 1	4. 中世後期の絵画 1	12. 15 世紀後半のイタリア絵画 2	5. 中世後期の絵画 2	13. 盛期ルネサンスの絵画 1	6. 15 世紀前半のイタリア絵画 1	14. 盛期ルネサンスの絵画 2	7. 15 世紀前半のイタリア絵画 2	15. 盛期ルネサンスの絵画 3	8. 15 世紀前半のイタリア絵画 3	
1. 西洋の歴史と美術史の枠組みについて	9. 初期ネーデルランドの絵画 1																				
2. ルネサンスとは何か?	10. 初期ネーデルランドの絵画 2																				
3. 中世の文化と美術	11. 15 世紀後半のイタリア絵画 1																				
4. 中世後期の絵画 1	12. 15 世紀後半のイタリア絵画 2																				
5. 中世後期の絵画 2	13. 盛期ルネサンスの絵画 1																				
6. 15 世紀前半のイタリア絵画 1	14. 盛期ルネサンスの絵画 2																				
7. 15 世紀前半のイタリア絵画 2	15. 盛期ルネサンスの絵画 3																				
8. 15 世紀前半のイタリア絵画 3																					

教科 No.	6b011	授業科目	西洋美術史 II	単位数	2単位																
担当教員	潮江宏三 (美術学部・芸術学研究室)			開講学期	後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1 回生以上																	
<p>【授業目標】 西洋美術理解のための基本的知識と見方を身につけ、西洋文化の理解を深める。</p> <p>【授業概要】 ヨーロッパ文化がその性格を明確にする盛期ルネサンス時代からバロック時代までの美術の展開を絵画史を中心に論じる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 盛期ルネサンス 1</td> <td>9. バロック美術とは?</td> </tr> <tr> <td>2. 盛期ルネサンス 2</td> <td>10. イタリアのバロック絵画 1</td> </tr> <tr> <td>3. マニエリスムの芸術 1</td> <td>11. イタリアのバロック絵画 2</td> </tr> <tr> <td>4. マニエリスムの芸術 2</td> <td>12. バロック絵画—フランドル</td> </tr> <tr> <td>5. マニエリスムの芸術 3</td> <td>13. バロック絵画—スペイン</td> </tr> <tr> <td>6. マニエリスムの芸術 4</td> <td>14. バロック絵画—フランス</td> </tr> <tr> <td>7. ヴェネツィア派の絵画 1</td> <td>15. 17 世紀オランダ絵画</td> </tr> <tr> <td>8. ヴェネツィア派の絵画 2</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末に筆記試験を行い、それに出席点を加味して評価する。</p> <p>【履修上の注意】 可能な限りスライドを映写するので、鑑賞体験を積んで欲しい。</p> <p>【教科書】 教科書として「西洋美術史案内」(実費 1, 000 円)を購入すること。参考資料は別途配布する。</p> <p>【参考書等】 参考図書に関しては、授業中に指示する。</p>						1. 盛期ルネサンス 1	9. バロック美術とは?	2. 盛期ルネサンス 2	10. イタリアのバロック絵画 1	3. マニエリスムの芸術 1	11. イタリアのバロック絵画 2	4. マニエリスムの芸術 2	12. バロック絵画—フランドル	5. マニエリスムの芸術 3	13. バロック絵画—スペイン	6. マニエリスムの芸術 4	14. バロック絵画—フランス	7. ヴェネツィア派の絵画 1	15. 17 世紀オランダ絵画	8. ヴェネツィア派の絵画 2	
1. 盛期ルネサンス 1	9. バロック美術とは?																				
2. 盛期ルネサンス 2	10. イタリアのバロック絵画 1																				
3. マニエリスムの芸術 1	11. イタリアのバロック絵画 2																				
4. マニエリスムの芸術 2	12. バロック絵画—フランドル																				
5. マニエリスムの芸術 3	13. バロック絵画—スペイン																				
6. マニエリスムの芸術 4	14. バロック絵画—フランス																				
7. ヴェネツィア派の絵画 1	15. 17 世紀オランダ絵画																				
8. ヴェネツィア派の絵画 2																					

教科 No.	6b012	授業科目	日本美術史：彫刻	単位数	2単位																
担当教員	礪波恵昭（美術学部・芸術学研究室）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上																	
<p>【授業目標】 日本彫刻史に関する専門的な研究の実例を学ぶことによって、この分野の基礎的な研究成果を知るとともに、創作に活用し、研究方法を身につけることを目標とする。</p> <p>【授業概要】 「日本仏像史」日本では仏教文化の展開に伴い、多くの仏像が作られてきた。本授業では、重要かつ優れた作品が残されている飛鳥時代・7世紀から鎌倉時代・13世紀までを中心に、日本の仏教彫刻の様式展開を講義する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 平安時代後期（1）</td> </tr> <tr> <td>2. 仏像の基礎知識（1） 日本の仏像の種類（図像）</td> <td>10. 平安時代後期（2）</td> </tr> <tr> <td>3. 仏像の基礎知識（2） 素材と技法</td> <td>11. 鎌倉時代前期（1）</td> </tr> <tr> <td>4. 飛鳥時代</td> <td>12. 鎌倉時代前期（2）</td> </tr> <tr> <td>5. 飛鳥時代後期（白鳳時代）</td> <td>13. 鎌倉時代後期</td> </tr> <tr> <td>6. 奈良時代前期</td> <td>14. 総括</td> </tr> <tr> <td>7. 奈良時代後期</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 平安時代前期</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 学期末の試験の成績を重視し、出席状況も加味して評価する。</p> <p>【履修上の注意】 予備知識は特に必要としない</p> <p>【教科書】 なし。必要資料は全て配布する。</p> <p>【参考書等】 水野敬三郎監修『日本仏像史』（美術出版社）</p>						1. イントロダクション	9. 平安時代後期（1）	2. 仏像の基礎知識（1） 日本の仏像の種類（図像）	10. 平安時代後期（2）	3. 仏像の基礎知識（2） 素材と技法	11. 鎌倉時代前期（1）	4. 飛鳥時代	12. 鎌倉時代前期（2）	5. 飛鳥時代後期（白鳳時代）	13. 鎌倉時代後期	6. 奈良時代前期	14. 総括	7. 奈良時代後期	15. 試験	8. 平安時代前期	
1. イントロダクション	9. 平安時代後期（1）																				
2. 仏像の基礎知識（1） 日本の仏像の種類（図像）	10. 平安時代後期（2）																				
3. 仏像の基礎知識（2） 素材と技法	11. 鎌倉時代前期（1）																				
4. 飛鳥時代	12. 鎌倉時代前期（2）																				
5. 飛鳥時代後期（白鳳時代）	13. 鎌倉時代後期																				
6. 奈良時代前期	14. 総括																				
7. 奈良時代後期	15. 試験																				
8. 平安時代前期																					

教科 No.	6b013	授業科目	文化人類学：異文化理解の基礎を学ぶ	単位数	2単位																
担当教員	信田敏宏（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上																	
<p>【授業目標】 文化人類学の考え方を理解する。</p> <p>【授業概要】 文化人類学は自らの文化とは異なる文化を研究する学問です。しかしながら、他者を理解することは結局のところ自分を理解することにつながっています。講義では、世界各地の民族の事例と日本の身近な事例とを比較しながら、文化人類学の基本的な考え方を紹介していきます。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. ケガレの人類学（2）</td> </tr> <tr> <td>2. 文化人類学入門（1）</td> <td>10. 贈与交換の人類学（1）</td> </tr> <tr> <td>3. 文化人類学入門（2）</td> <td>11. 贈与交換の人類学（2）</td> </tr> <tr> <td>4. 人類の歴史（1）</td> <td>12. 音楽と文化人類学（1）</td> </tr> <tr> <td>5. 人類の歴史（2）</td> <td>13. 音楽と文化人類学（2）</td> </tr> <tr> <td>6. 通過儀礼と境界性（1）</td> <td>14. 世界の民族音楽</td> </tr> <tr> <td>7. 通過儀礼と境界性（2）</td> <td>15. 他者の他者性を考える</td> </tr> <tr> <td>8. ケガレの人類学（1）</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 原則として試験によって評価する。ただし、出席率およびリアクションペーパーも加味する。</p> <p>【履修上の注意】 積極的に授業に参加しましょう。</p> <p>【教科書】 指定しない。</p> <p>【参考書等】 授業時間に提示する。</p>						1. イントロダクション	9. ケガレの人類学（2）	2. 文化人類学入門（1）	10. 贈与交換の人類学（1）	3. 文化人類学入門（2）	11. 贈与交換の人類学（2）	4. 人類の歴史（1）	12. 音楽と文化人類学（1）	5. 人類の歴史（2）	13. 音楽と文化人類学（2）	6. 通過儀礼と境界性（1）	14. 世界の民族音楽	7. 通過儀礼と境界性（2）	15. 他者の他者性を考える	8. ケガレの人類学（1）	
1. イントロダクション	9. ケガレの人類学（2）																				
2. 文化人類学入門（1）	10. 贈与交換の人類学（1）																				
3. 文化人類学入門（2）	11. 贈与交換の人類学（2）																				
4. 人類の歴史（1）	12. 音楽と文化人類学（1）																				
5. 人類の歴史（2）	13. 音楽と文化人類学（2）																				
6. 通過儀礼と境界性（1）	14. 世界の民族音楽																				
7. 通過儀礼と境界性（2）	15. 他者の他者性を考える																				
8. ケガレの人類学（1）																					

教科 No.	6b014	授業科目	西洋文化史Ⅰ：古代ギリシア，ローマ，ビザンティンの文化	単位数	2単位																
担当教員	渡辺浩司（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上																	
<p>【授業目標】 西洋の古代から中世までの文学と美術とを概観し，西洋文化の基盤を知ることが目標とします。</p> <p>【授業概要】 西洋文化は，ヘレニズムとヘブライズムとから成るといわれます。いずれも古代世界の文化・思想です。この二つの文化・思想を大枠としてとらえて，古代ギリシア，ローマ，ビザンティンの三つの時代の美術，文学，音楽をDVDやビデオを使って紹介します。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 西洋文化史の概観</td> <td>9. ローマの音楽</td> </tr> <tr> <td>2. ヘレニズムとヘブライズム</td> <td>10. ローマの美術</td> </tr> <tr> <td>3. ギリシアとは，歴史と文化</td> <td>11. ビザンティンとは，歴史と文化</td> </tr> <tr> <td>4. ギリシアの文学</td> <td>12. ビザンティンの文学</td> </tr> <tr> <td>5. ギリシアの音楽</td> <td>13. ビザンティンの音楽</td> </tr> <tr> <td>6. ギリシアの美術</td> <td>14. ビザンティンの美術</td> </tr> <tr> <td>7. ローマとは，歴史と文化</td> <td>15. テスト</td> </tr> <tr> <td>8. ローマの文学</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 テスト 80 点，平常点 20 点</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 授業中に紹介します。</p>						1. 西洋文化史の概観	9. ローマの音楽	2. ヘレニズムとヘブライズム	10. ローマの美術	3. ギリシアとは，歴史と文化	11. ビザンティンとは，歴史と文化	4. ギリシアの文学	12. ビザンティンの文学	5. ギリシアの音楽	13. ビザンティンの音楽	6. ギリシアの美術	14. ビザンティンの美術	7. ローマとは，歴史と文化	15. テスト	8. ローマの文学	
1. 西洋文化史の概観	9. ローマの音楽																				
2. ヘレニズムとヘブライズム	10. ローマの美術																				
3. ギリシアとは，歴史と文化	11. ビザンティンとは，歴史と文化																				
4. ギリシアの文学	12. ビザンティンの文学																				
5. ギリシアの音楽	13. ビザンティンの音楽																				
6. ギリシアの美術	14. ビザンティンの美術																				
7. ローマとは，歴史と文化	15. テスト																				
8. ローマの文学																					

教科 No.	6b015	授業科目	西洋文化史Ⅱ	単位数	2単位																
担当教員	池田晋也，落合理恵子，三島 郁（非常勤）			開講学期	集中（前期）																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上																	
<p>【授業目標】 近世から現代までの西洋文化史の重要な展開を，芸術・音楽との関連を中心に学ぶ。</p> <p>【授業概要】 主として近世から現代までの西洋文化史の中から，特にイタリア，オランダ，フランス，ドイツ語圏の文化と音楽に関して，各文化に詳しい教員が様々なテーマで論じるオムニバス形式の授業。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 池田晋也</td> <td>9. 三島 郁</td> </tr> <tr> <td>2. 20 世紀前半における科学技術と人間</td> <td>10. オランダ黄金時代の知識人の教養活動と音楽</td> </tr> <tr> <td>3. 一都市，交通，機械，アンドロイド，サイボーグそしてジャズ</td> <td>11. 「普遍人」コンスタンタイン・ホイヘンス</td> </tr> <tr> <td>4. 落合理恵子</td> <td>12. ホイヘンスとフランス宮廷付き音楽家</td> </tr> <tr> <td>5. 「イタリア・ルネサンス期における宮廷文化と音楽」</td> <td>13. 17 世紀の楽譜出版事情</td> </tr> <tr> <td>6. ルネサンス期にイタリアでもっとも栄えた街，フィレンツェを取り上げ，そこを支配して</td> <td>14. デカルトらの「エール・ド・クールくらべ」論争</td> </tr> <tr> <td>7. いたメディチ家の宮廷生活と音楽を学ぶ。そして，メディチ家の宮廷でどのような音楽が</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 鳴り響いていたかを理解しながら，いかにしてオペラが誕生したかを探る。</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 各教員が，テスト，ミニレポート，平常点のいずれかで採点したものを総合して評価する。</p> <p>【履修上の注意】 出席を重視する。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 なし</p>						1. 池田晋也	9. 三島 郁	2. 20 世紀前半における科学技術と人間	10. オランダ黄金時代の知識人の教養活動と音楽	3. 一都市，交通，機械，アンドロイド，サイボーグそしてジャズ	11. 「普遍人」コンスタンタイン・ホイヘンス	4. 落合理恵子	12. ホイヘンスとフランス宮廷付き音楽家	5. 「イタリア・ルネサンス期における宮廷文化と音楽」	13. 17 世紀の楽譜出版事情	6. ルネサンス期にイタリアでもっとも栄えた街，フィレンツェを取り上げ，そこを支配して	14. デカルトらの「エール・ド・クールくらべ」論争	7. いたメディチ家の宮廷生活と音楽を学ぶ。そして，メディチ家の宮廷でどのような音楽が		8. 鳴り響いていたかを理解しながら，いかにしてオペラが誕生したかを探る。	
1. 池田晋也	9. 三島 郁																				
2. 20 世紀前半における科学技術と人間	10. オランダ黄金時代の知識人の教養活動と音楽																				
3. 一都市，交通，機械，アンドロイド，サイボーグそしてジャズ	11. 「普遍人」コンスタンタイン・ホイヘンス																				
4. 落合理恵子	12. ホイヘンスとフランス宮廷付き音楽家																				
5. 「イタリア・ルネサンス期における宮廷文化と音楽」	13. 17 世紀の楽譜出版事情																				
6. ルネサンス期にイタリアでもっとも栄えた街，フィレンツェを取り上げ，そこを支配して	14. デカルトらの「エール・ド・クールくらべ」論争																				
7. いたメディチ家の宮廷生活と音楽を学ぶ。そして，メディチ家の宮廷でどのような音楽が																					
8. 鳴り響いていたかを理解しながら，いかにしてオペラが誕生したかを探る。																					

教科 No.	6b016	授業科目	日本文化史 I	単位数	2単位
担当教員	(休講)			開講学期	前期または後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上	

今年度休講

教科 No.	6b017	授業科目	日本文化史Ⅱ：日本人の生命観	単位数	2単位
担当教員	鈴木貞美（非常勤）			開講学期	集中（前期）
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上	

【授業目標】

生命について、日本人がどのように考え、表現してきたかをたどりながら、日本文化史の概略をつかみながら、今日の問題を考える力を養う

【授業概要】

古代から、とくに近現代までの日本人の生命観の諸相を解説するが、芸術との関連に力をそそぐ

【授業内容】

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 今日生命をめぐる諸問題 2. 古代の生命観 3. 中世の生命観 仏教を中心に 4. 近世の生命観 儒学を中心に 5. 近代の生命観1 天賦人權論 6. 近代の生命観2 進化論 7. 近代の生命観3 遺伝 8. 現代の生命観1 生命中心の思想 | <ul style="list-style-type: none"> 9. 現代の生命観2 生命中心主義の芸術 10. 現代の生命観3 生命中心の文藝 11. 世界大戦と戦後の生命観 12. 世界大戦と戦後の芸術 13. 今日生命観 遺伝子の考え方 14. 今日生命観 コンピュータと生命 15. まとめと試験 |
|--|--|

【評価方法】

レポートを提出させ、採点するが、授業内容をよく理解したかどうかで評価する

【履修上の注意】

パワーポイントで教科書外の図版の紹介を行い、図解を行う

【教科書】

鈴木貞美『日本人の生命観一神、恋、倫理』（中公新書）

【参考書等】

適宜、プリントを配布。

教科 No.	6b018	授業科目	アジア文化史 I		単位数	2単位
担当教員	(休講)				開講学期	前期または後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上		
<h2 style="margin: 0;">今年度休講</h2>						

教科 No.	6b019	授業科目	アジア文化史Ⅱ：南アジアの音楽文化論		単位数	2単位																
担当教員	田中多佳子（非常勤）				開講学期	集中（前期）																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上																		
<p>【授業目標】 南アジアの音楽文化について、その背景と共に理解しながら基本的な知識を身につけると同時に、地球上の音楽文化に反映された多様な価値観の一端を知る。</p> <p>【授業概要】 南アジアの複雑な社会構造や言語、信仰形態や宗教的背景、歴史的背景、地理的位置関係や自然環境、人々のライフスタイルなどを概観しながら、それが音楽とどのように関係しているのかを具体的に観察する。基本的に講義形式だが、視聴覚資料・楽器資料を多用し、時には討論や簡単な実技も伴いながら立体的理解に努めたい。</p> <p>【授業内容】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 南アジアとは：地理・民族・社会・言語・宗教など</td> <td style="width: 50%;">9. ヒンドゥー教と音楽芸能 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 南アジアの歴史と音楽の概観</td> <td>10. ヒンドゥー教と音楽芸能 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 南アジアの楽器と民俗芸能</td> <td>11. イスラム教と音楽芸能</td> </tr> <tr> <td>4. 南アジアの楽器と民俗芸能</td> <td>12. その他の宗教と音楽芸能</td> </tr> <tr> <td>5. 南アジアの古典音楽と理論</td> <td>13. 南アジアの大衆音楽</td> </tr> <tr> <td>6. 北インドの古典音楽と古典舞踊</td> <td>14. 南アジア音楽の今日</td> </tr> <tr> <td>7. 南インドの古典音楽と古典舞踊</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 古典音楽の今日</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 各日の最後に、一日の講義内容の要点について問う試験（視聴覚問題を含む）を行い、その総合点で評価する。</p> <p>【履修上の注意】 視聴覚資料や楽器を多用しつつ段階的に講義を進めるため、途中で欠席すると理解が難しくなる。各日の試験も含め、基本的に欠席しないこと。</p> <p>【教科書】 使用しない。プリントを配布する。</p> <p>【参考書等】 B.C. デーヴァ『インド音楽序説』（中川博志訳，東方出版，1994年）</p>							1. 南アジアとは：地理・民族・社会・言語・宗教など	9. ヒンドゥー教と音楽芸能 (1)	2. 南アジアの歴史と音楽の概観	10. ヒンドゥー教と音楽芸能 (2)	3. 南アジアの楽器と民俗芸能	11. イスラム教と音楽芸能	4. 南アジアの楽器と民俗芸能	12. その他の宗教と音楽芸能	5. 南アジアの古典音楽と理論	13. 南アジアの大衆音楽	6. 北インドの古典音楽と古典舞踊	14. 南アジア音楽の今日	7. 南インドの古典音楽と古典舞踊	15. まとめ	8. 古典音楽の今日	
1. 南アジアとは：地理・民族・社会・言語・宗教など	9. ヒンドゥー教と音楽芸能 (1)																					
2. 南アジアの歴史と音楽の概観	10. ヒンドゥー教と音楽芸能 (2)																					
3. 南アジアの楽器と民俗芸能	11. イスラム教と音楽芸能																					
4. 南アジアの楽器と民俗芸能	12. その他の宗教と音楽芸能																					
5. 南アジアの古典音楽と理論	13. 南アジアの大衆音楽																					
6. 北インドの古典音楽と古典舞踊	14. 南アジア音楽の今日																					
7. 南インドの古典音楽と古典舞踊	15. まとめ																					
8. 古典音楽の今日																						

教科 No.	6b020	授業科目	社会学：人びとの結びつきを考える	単位数	2単位																
担当教員	田保 颯（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1 回生以上																	
<p>【授業目標】 社会学の基礎知識や思考法を身につける。</p> <p>【授業概要】 この授業では「近代」という時代に特徴的な諸事象を取り上げながら、我々の生きている現代社会の諸問題について考えていく。具体的には、消費化、情報化、グローバル化など様々な呼ばれている現状を社会的に検討する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション—社会学の生成</td> <td>9. 家庭と女性</td> </tr> <tr> <td>2. 第一のフォーマット 主権国家</td> <td>10. 消費化時代への問題提起</td> </tr> <tr> <td>3. 第二のフォーマット 産業資本制市場社会</td> <td>11. 情報化</td> </tr> <tr> <td>4. 19 世紀後半の主権国家</td> <td>12. グローバル化</td> </tr> <tr> <td>5. 群衆とその統制</td> <td>13. リスク社会</td> </tr> <tr> <td>6. 大量生産システムの完成</td> <td>14. 現代の日本</td> </tr> <tr> <td>7. 二大フォーマットの内破</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 消費化</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験 60%，課題など 30%，授業参加（出席など）10%。</p> <p>【履修上の注意】 音楽を媒介として自分が社会とどう結びつか、あるいは切り離されているかを考えておこう。</p> <p>【教科書】 左古輝人（2006）『畏怖する近代—社会学入門』法政大学出版局 1,890 円（税込）</p> <p>【参考書等】 長谷川公一ほか（2007）『社会学』有斐閣 その他は授業中に適宜紹介する。</p>						1. オリエンテーション—社会学の生成	9. 家庭と女性	2. 第一のフォーマット 主権国家	10. 消費化時代への問題提起	3. 第二のフォーマット 産業資本制市場社会	11. 情報化	4. 19 世紀後半の主権国家	12. グローバル化	5. 群衆とその統制	13. リスク社会	6. 大量生産システムの完成	14. 現代の日本	7. 二大フォーマットの内破	15. まとめ	8. 消費化	
1. オリエンテーション—社会学の生成	9. 家庭と女性																				
2. 第一のフォーマット 主権国家	10. 消費化時代への問題提起																				
3. 第二のフォーマット 産業資本制市場社会	11. 情報化																				
4. 19 世紀後半の主権国家	12. グローバル化																				
5. 群衆とその統制	13. リスク社会																				
6. 大量生産システムの完成	14. 現代の日本																				
7. 二大フォーマットの内破	15. まとめ																				
8. 消費化																					

教科 No.	6b021	授業科目	心理学：こころと人間と社会	単位数	2単位																
担当教員	藤島 寛（非常勤）			開講学期	後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1 回生以上																	
<p>【授業目標】 心理学の基礎を学び、こころの働きを理解する</p> <p>【授業概要】 心理学の主要なトピックから、発達心理学「こころの発達」、認知心理学「認知とエラー」、性格心理学から「パーソナリティの理解」、臨床心理学から「不安」、社会心理学から「社会的ジレンマ」の 5 つのトピックを取り上げる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. こころの発達 1 回目「基本的信頼感の形成」</td> <td>9. パーソナリティとコーピング 3 回目「芸術家の性格」</td> </tr> <tr> <td>2. こころの発達 2 回目「愛着」</td> <td>10. 不安 1 回目「対人不安」</td> </tr> <tr> <td>3. こころの発達 3 回目「心の理論」</td> <td>11. 不安 2 回目「うつ」</td> </tr> <tr> <td>4. 認知とエラー 1 回目「感覚と知覚」</td> <td>12. 不安 3 回目「自尊心と自己愛」</td> </tr> <tr> <td>5. 認知とエラー 2 回目「エラーを測る」</td> <td>13. 社会的ジレンマ 1 回目「社会的ジレンマのゲーム」</td> </tr> <tr> <td>6. 認知とエラー 3 回目「ヒューマンエラー」</td> <td>14. 社会的ジレンマ 2 回目「利己と利他」</td> </tr> <tr> <td>7. パーソナリティとコーピング 1 回目「パーソナリティを測る」</td> <td>15. 社会的ジレンマ 3 回目「信頼と協調」</td> </tr> <tr> <td>8. パーソナリティとコーピング 2 回目「個人差の理解」</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 講義への出席程度、およびレポートから評価</p> <p>【履修上の注意】 積極的に授業に参加する。</p> <p>【教科書】 特に使用しない</p> <p>【参考書等】 講義の進行に従い適宜紹介する</p>						1. こころの発達 1 回目「基本的信頼感の形成」	9. パーソナリティとコーピング 3 回目「芸術家の性格」	2. こころの発達 2 回目「愛着」	10. 不安 1 回目「対人不安」	3. こころの発達 3 回目「心の理論」	11. 不安 2 回目「うつ」	4. 認知とエラー 1 回目「感覚と知覚」	12. 不安 3 回目「自尊心と自己愛」	5. 認知とエラー 2 回目「エラーを測る」	13. 社会的ジレンマ 1 回目「社会的ジレンマのゲーム」	6. 認知とエラー 3 回目「ヒューマンエラー」	14. 社会的ジレンマ 2 回目「利己と利他」	7. パーソナリティとコーピング 1 回目「パーソナリティを測る」	15. 社会的ジレンマ 3 回目「信頼と協調」	8. パーソナリティとコーピング 2 回目「個人差の理解」	
1. こころの発達 1 回目「基本的信頼感の形成」	9. パーソナリティとコーピング 3 回目「芸術家の性格」																				
2. こころの発達 2 回目「愛着」	10. 不安 1 回目「対人不安」																				
3. こころの発達 3 回目「心の理論」	11. 不安 2 回目「うつ」																				
4. 認知とエラー 1 回目「感覚と知覚」	12. 不安 3 回目「自尊心と自己愛」																				
5. 認知とエラー 2 回目「エラーを測る」	13. 社会的ジレンマ 1 回目「社会的ジレンマのゲーム」																				
6. 認知とエラー 3 回目「ヒューマンエラー」	14. 社会的ジレンマ 2 回目「利己と利他」																				
7. パーソナリティとコーピング 1 回目「パーソナリティを測る」	15. 社会的ジレンマ 3 回目「信頼と協調」																				
8. パーソナリティとコーピング 2 回目「個人差の理解」																					